

2歳児歯科検診のう蝕予防効果

こうもとさちこ

○河本幸子（岡山市中央保健所），梶浦靖二（島根県健康福祉部健康対策課）
森田 学，渡邊達夫（岡山大・歯・予防歯科）

岡山市中央保健所管内で，2歳児歯科検診を受けた幼児と受けていない幼児との間で，3歳児健康診査時のう蝕罹患状況と歯科保健行動を比較した。その結果，2歳児歯科検診を受けた幼児は，フッ素塗布や，フッ素入り歯磨剤を利用している割合が高かったが，う蝕の罹患状況には有意差を認めなかった。

【目的】岡山市では，幼児を対象とした歯科保健事業として，1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査の間に，2歳児歯科検診を行っている。今回，2歳児歯科検診が3歳6か月時点でのう蝕罹患および保健行動に及ぼす影響を評価することを目的として，調査を行った。

【対象と方法】平成6年10月から平成7年1月までに，岡山市中央保健所管内の1歳6か月児健康診査（以下，1,6健診）を受診したう蝕を有しない幼児の中で，平成8年10月から平成9年1月に3歳児健康診査（3健）を受診した者を対象にした。2歳児歯科検診を受診した者（受診群）と受診していない者（対照群）とに分け，3歳児健康診査時のう蝕罹患状況と歯科保健行動を比較した。

【結果】1,6健診と3健を受診した幼児は，489名（男児236名，女児253名）であった。そのうち，2歳児歯科検診受診群は，116名（男児50名，女児66名），対照群は，373名（男児186名，女児187名）であった。3健時の歯科健康診査結果を，表1に示す。1人平均df歯数が受診群 1.16 ± 2.20 本，対照群 1.58 ± 2.78 本であり， t -testで2群間に有意差は認めなかった。う蝕有病者率は，受診群 35.3%，対照群 39.9%であった。 χ^2 -testで2群間に有意な差は認めなかった。

表1 3歳児歯科健康診査結果

	受診群	対照群	significance
1人平均df歯数（本）	1.16 ± 2.20	1.58 ± 2.78	N.S. (t -test)
う蝕有病者率（%）	35.3	39.9	N.S. (χ^2 -test)

健康診査票の質問項目について，1,6健診では，2群間で有意な差を認めるものはなかった。3健時の結果を2群間で比較したところ，「今までにフッ素塗布を何回受けましたか。」と「フッ素のはいった歯磨き剤を使用していますか。」という質問項目で，有意差が認められた（表2）。

表2 3歳児健康診査票（一部）

		受診群(%)	対照群(%)	χ^2 -test
フッ素塗布回数	0回	13 (11.4)	175 (47.2)	$p = 0.000$
	1回	52 (45.6)	65 (17.5)	
	2回	18 (15.8)	60 (16.2)	
	3回	13 (11.4)	27 (7.3)	
	4回以上	18 (15.8)	44 (11.9)	
フッ素入り歯磨剤の使用	使用	64 (56.1)	138 (38.2)	$p = 0.001$
	非使用	50 (43.9)	223 (61.8)	

【考察】今回の結果では，2歳児歯科検診の受診の有無では，う蝕の罹患状況に有意差は認められなかった。しかし，フッ素塗布を受けたり，フッ素入り歯磨剤を使用するなど，う蝕の予防につながる行動はおこなっていると考えられる。岸ら¹⁾によると，1歳6か月から3歳6か月まで，6か月間隔で，4回のフッ化物の塗布を受けた幼児は，塗布を受けなかった幼児に比べ，う蝕抑制率が約50%であった。岡山市でも，保健指導とフッ素塗布の効果が，う蝕の予防につながるように，2歳児歯科検診の指導内容を充実する必要がある。

【謝辞】本調査にご協力いただきました 岡山市中央保健所歯科衛生士 藤田幸子様，中村紀子様，妹尾裕美様に，心より感謝いたします。

【参考文献】1) 岸 洋志ら：歯ブラシを用いたフッ化物ジェル歯面塗布法によるう蝕予防効果，
口腔衛生学会雑誌，43；394～395，1993。